

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

一章	①宣長の謎(物:場C')⇒からの関係:「②分析しにくい感情が動揺する(D1の至小化)」(①への愛・信(D1の至大化)を基盤)⇒「③分析成功の可否」(②的概念)⇒③は不見當(Eの至小化)⇒小林の記述方針(△粹)。
二章	①宣長(物:場C')⇒からの関係:①の「②學問・思想」⇒「③『葦別小舟』のいつも漕ぎ手は一人といふ姿・自分はかく考へると言ふ肉聲」(②的概念)⇒①の③は不變⇒①を判讀・信じた弟子(△粹)の誤解:①への適應異常[①の姿(物:場C')は似せ難し]。
三章	①學者生活(物:場C')⇒からの関係:①を終生支へた(D1の至大化)「②醫業(D1)」⇒帳簿名「③濟世」録(②的概念:F)⇒③を學問上著作では「④決して使ひたがらなかつた」(③への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長(△粹):①への適應正常。
四章	①『宣長の日記(物:場C')の裡に深く隠れてゐる或るもの(物:場C')⇒からの関係:①の「②言ひ難い魅力を直知。何とか解きほぐしてみたい」(D1の至大化)⇒「③環境といふ原因・思想の様々な特色(F)」(②の對立的概念F)⇒E:③を「④明らめよう(E)・分析説明する(E)」(③への距離不獲得:Eの至小化)⇒④の歴史家(△粹)と②の小林との相違(△粹)。

①(物:場C')

一章:①宣長の謎(物:場)。
 二章:①宣長(物:場)。①の姿(物:場C')。
 三章:①學者生活(物:場C')。
 四章:①『宣長の日記(物:場C')の裡に深く隠れてゐる或るもの(物:場C')』。

② からの関係②(D1の至大化)

一章 「②分析しにくい感情が動揺する」(D1の至小化):(①への愛・信を基盤)。
 二章 ①の「②學問・思想」(D1の至大化)。
 三章 ①を終生支へた(D1の至大化)「②醫業(D1)」。
 四章 ①の「②言ひ難い魅力を直知。何とか解きほぐしてみたい」(D1の至大化)。

E: [F(③言葉・概念)との附き合ひ方④・用法④]・・・
 「So called」 「F③と(△粹)との距離獲得」(Eの至大化)。
 一章:③は不見當(Eの至小化)。
 二章:③は不變。
 三章:③を學問上著作では「④決して使ひたがらなかつた」(③への距離獲得:Eの至大化)
 四章:③を「④明らめよう(E)・分析説明する(E)」(③への距離不獲得:Eの至小化)。

(△粹)

一章:小林の記述方針(△粹)。
 二章:①を判讀・信じた弟子(△粹)の誤解:①への適應異常[①の姿(物:場C')は似せ難し]。
 三章:宣長(△粹) ①への適應正常。
 四章:④の歴史家(△粹)と②の小林との相違(△粹)。

F(③言葉・概念)・・・一章:「③分析成功の可否」(②的概念)。二章:「③『葦別小舟』のいつも漕ぎ手は一人といふ姿・自分はかく考へると言ふ肉聲」(②的概念)。
 三章:帳簿名「③濟世」録(②的概念:F)。
 四章:「③環境といふ原因・思想の様々な特色(F)」(②の對立的概念F)。

②	からの関係②(D1の至大化)
一章	「②分析しにくい感情が動揺する」(D1の至小化) (①への愛・信を基盤)。
二章	①の「②學問・思想」(D1の至大化)。
三章	
四章	

一章小林の記述方針:二章:
三章:四章